

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m以下で -9°C 以下の寒気を伴う切離低気圧対応の低気圧が黄海にあって、前線を伴い北北東進。前線は閉塞し、前線や低気圧に向かう下層暖湿流（福岡の高層観測21時 850hPa θ_e 346K）の影響で、対馬海峡では、前線近傍で1時間50mm以上の非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。西～東日本の斜面では1時間30mm以上の激しい雨を解析。
- ② 25日3時で台風第2号が熱帯低気圧化した。熱帯低気圧は八丈島の南を北北西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の黄海の低気圧は北北東へ進み、26日朝までに不明瞭化する。また、25日夜までに閉塞点に新たな低気圧が発生し、前線を伴い東北東進し、26日朝までに前線が閉塞する。その後、26日夜までに閉塞点に新たな低気圧が発生し津軽海峡の東へ進む。前線は日本付近を南下し、27日朝にかけて本州太平洋側沿岸へ進む。また、1項②の熱帯低気圧は、25日夜には伊豆諸島付近へ進み、関東地方沿岸を通り26日夜には日本の東で温帯低気圧化する。前線や低気圧に向かう暖湿流や、台風から変わった熱帯低気圧起源の850hPa θ_e 345K以上の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。西～北日本では26日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょうに注意。局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 日本のはるか東では25日朝までに高気圧が形成され、27日にかけてゆっくり東へ移動する。この高気圧と2項①の低気圧や前線との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き波が高くなり、しける所がある。東日本では26日にかけて、うねりを伴う高波に注意し、西～北日本では25日は、強風に注意。
- ③ 2項①の津軽海峡の東の低気圧は、27日にかけて千島近海へ進み、前線は西～東日本太平洋側沿岸から日本の東へ遠ざかる。一方、27日は、500hPa 5760m付近で -6°C 以下の寒気を伴うトラフが、北～東日本を通過する。地上の昇温や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い強い雨の降る所がある。北日本では27日は、落雷、突風、降ひょうや急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：東海・四国120、関東甲信100mm。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島4、関東3m。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。南西諸島と西日本及び東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。